



# はちもり

校訓：海のように 波のように 岩のように

令和5年4月21日(金)

第3号 文責：安部 晃幸

八峰町立八森小学校

目指す子ども像

- ①よさを伸ばし合う子ども
- ②つながりを大切にする子ども
- ③自らとふるさとを拓く子ども



全校でそうじの仕方を確認しました。

## 縦割り班活動開始!

4月12日(水)から縦割り班での活動が始まっています。最初は顔合わせをして写真撮影をしました。高学年の皆さん、低学年のお世話をよろしくお願いします。



短い時間で手早く取り組みます。



今日のそうじ、がんばった人は手をあげてください!

みんなで協力してがんばります。やるぞー! やるぞー!! やるぞー!!!



## 全国学力・学習状況調査

4月18日(火)に全国学力・学習状況調査があり、6年生がテストに臨みました。今年は国語、算数の2教科です。

初めての慣れないテストでしたが、最後まで集中して取り組んでいました。

結果は分析し、その後、補充指導に活用していきます。



## 運動会のお知らせ

期日：5月14日(日)

※雨天時は21日に延期

会場：八森小学校グラウンド

日程：8:50 入場行進

12:30 終了予定

種目：各学年徒競走

学年種目他

※参観者の制限はしませんので、皆さんどうぞおいでください。子どもたちの頑張りを、ぜひご覧ください。

## 交通事故には改めて注意を!

小学生の歩行中の交通事故(平成30年~令和4年)をみると、小学校1年生の死者・重傷者数は6年生の約3.2倍、死者に絞ると1年生は6年生の10倍に上るそうです。

1年生の事故が最も多いのは5月中旬で、死者・重傷者の約4割は飛び出しが原因となっています。小学校1年生になると行動範囲が広がり、子どもだけで行動することが増えます。登下校を集団で行う場合でも、集合場所と自宅の往復は子どもだけで歩くことがありますし、下校時に道草をしたくなることもあるでしょう。

大型連休も近いことから、交通事故の未然防止についての家庭での話合いや外出時における帰宅時間、連絡方法の確認など、保護者の皆様からの声掛けのご協力をお願いします。



## 校報カラー版をご覧ください

八森小学校のホームページでカラー版を見ることができます。右のQRコードを読み取れば、学校HPにつながります。スマホ等で見ることもできます。どうぞご利用ください。



【1年生】 「ぶろっくをつかつかずをくらべよう」  
教科書の絵の上にブロックを並べて、ブロックの数を数えました。



【3年生】 「書写」(毛筆)  
正しい姿勢や筆の持ち方について映像で確認し、実際にやってみました。全員、背筋がぴんと伸びていました。



【4年生】 「ゴム風船を活用した体づくり運動」  
3人から6人と人数を変えたり、方法を変えたりしながら、運動の質を上げていました。



【5年生】 「好きなもの・ことについて伝え合おう」  
ALTのカート先生と音楽に合わせて、色やスポーツの英単語を発音していました。楽しそうでした。



【6年生】 「ものの燃え方」  
水中での気体の取り出し方について、先生や友達と対話しながら、実験方法を導き出しました。



## 授業の様子から



【2年生】 物語「ふきのとう」の視写  
物語の内容を捉えるため、語のままとりなど  
に気を付けながら、文章を書き写しました。早  
くてきた人は文章を黙読していました。



## つぎ

### 「見守る」ことの意義



ある雨の日の出来事。  
「校長先生、おはようございます。」  
元気なあいさつで児童玄関に駆け込んできた1年生の女の子。持っていたカサを閉じ、バンドをカサの胴体にぐるっと回してまとめようとしますが、なかなかバンドを留めることができません。何度も何度も試みますが、留められません。1分ほど過ぎたところで、「校長先生、できません…。」  
困った顔で救援要請。  
「バンドを逆に回したらどうかな。」  
ヒントを与えると、留め具が反対になっていたことに気付き、無事に留めることができました。  
「校長先生、できました！」  
「よくできましたね。」  
「ありがとうございました。」  
気持ちのよいあいさつを交わし、1日が始まりました。  
私たちは子どもができないときに、つい手を貸してしまうことがありますが、時には見守ることも大切です。失敗しながら、自らで考え、解決を図ろうとする過程が成長する大事なステップであると言えます。  
どうしてもできないときには、手を貸す前に、解決するためのヒントやアドバイスを与えて、自力での解決を促してみましょう。そして、できたときには大いに褒め、できなかったときには励ましてあげましょう。それが次への活力となるはずです。  
反省すべきことの多い私自身の子育てから得た教訓を紹介しました。